



# 献血 命をつなぐ、ボランティア!!

血液の必要な患者さんが安心して輸血をうけられるよう、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



福岡県内では、毎日 約600人の献血ご協力者を必要としています。

**献血日：2月19日(火)**  
**受付時間：9:30~15:30**  
**受付場所：野方菱光 飯盛工場**

## 【400mL 献血にご協力いただける方】

- ① 体重：男女とも**50kg以上**      ② 年齢：**18歳(男性は17歳)~69歳**  
(ただし、65歳以上の方については、60歳以降に献血経験がある方に限ります。)

【献血をしていただくために】 問診でお断りされないためにも…

- ① **食事と睡眠**はとっておいてください。

欠食や睡眠不足は、比重不足または気分不良の原因となります。  
睡眠は、最低4~5時間は睡眠をとってご参加願います。

- ② **献血カード**をお持ちください。

受付をスムーズに行う為、献血カードをお持ちの方は、ご持参願います。  
献血カードをお持ちの方は、**次回献血可能日のご確認**をお願いします。 <おもて>

- ③ **ご本人を確認できる書類**をお持ちください。

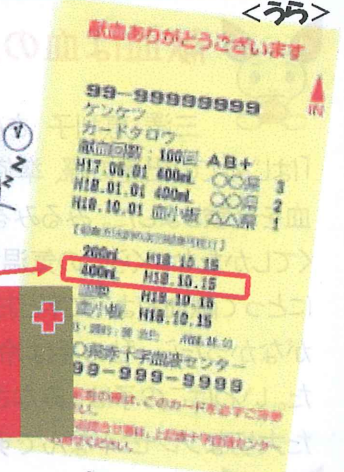
安全で責任ある献血を推進するため本人確認にご協力ください。  
**運転免許証、健康保険証等の提示**をお願いします。

- ④ **お薬を服用中の方は、薬の名前を確認**して来てください。

服薬中であっても献血をお願いできる場合もあります。  
お薬の名前を確認しますので内容がわかるようにご準備ください。

- ⑤ **海外渡航(旅行)**に行かれた方は

海外から帰国されて**4週間**は献血にご協力頂けません。



※【痛風予防・高尿酸血症のお薬について・・・】(発作がなければ)当日の服用も献血可能となりました!

※【血圧のお薬(降圧剤)について・・・】緩和されています!  
複数剤の服用をされていても、合併症がなく、当日の血圧が安定していれば、献血が可能となります!

**400mL献血をお願いします。** (ただし、服用開始直後や服用量変更直後につきましては、別途考慮させていただきます。)

全血献血には、400mLと200mLの2通りの献血がありますが、200mL献血の赤血球製剤は、福岡県内における医療機関への供給率が約1%とほとんど需要がありません。患者さんへの負担を軽減するため、大半が400mL献血による血液製剤が使用されておりますので、ご理解いただき、400mL献血にご協力をお願いいたします。



### 医師が総合的に判断します。

献血は、健康な方ならどなたでもご協力いただけますが、献血当日、問診票にご回答いただき、医師が総合的に判断し献血をご遠慮いただく場合がありますので、ご了承願います。

※献血の可否などについてご不明な場合は、福岡県赤十字血液センター  
(TEL092-921-1400)へお問い合わせ下さい。



輸血を受けた患者さんから頂いた

# ありがとうの声



**あなたは確実に必要とされている。  
もっと多くの人に気づいてほしい**

若木 瑞奈 さん

それまで、「輸血＝事故のときに必要なもの」というイメージしか持っていなかった瑞奈ちゃんのお母さん。瑞奈ちゃんは5歳で肝臓ガンを発症した。「手術や抗ガン剤治療に伴い大量の輸血が必要となったとき、強いショックを受けました。」当事者にならないとわからない”ってこういうことですね。同時に積極的に献血することが少なくなっていた当時の自分に対して後悔の気持ちが押し寄せました。献血という、誰かが命を分けてくれる行為があったからこそ、この子は今、元気に生きていられる。もしも”自分には何もできない”なんて考えている若い人がいたら、ぜひ献血に足を運んでほしい。あなたの中に流れるその血が、確実に誰かを救えるんです。」

(談:若木 瑞奈ちゃんのお母さん)



5歳のときに肝臓ガンを発症。肝臓移植と10ヶ月の入院生活を乗り越えた。LOVE in Actionのステージに出演した際は、「病気の人はまだたくさんいます。みなさん、力を貸してください。」と力強く呼び掛けている。



**献血は血の通った、あたたかい贈りもの**

三澤 恵利子 さん

「はじめての出産の際、準備万端で挑みましたが、医師も驚くほどの突然の大量出血により輸血を経験しました。みるみるうちに手足が真っ白になり、パンパンにむくんでいき、半袖でも暑くてしかたないくらいの気温だったはずなのに、気づけば「寒い、寒い」と連呼していました。私にとって献血とは、文字どおり、血の通ったあたたかい贈りものです。あのとき、輸血用の血液がなかったら、私の手は冷たいまま。生まれた子の頭を撫でてあげることもできませんでした。いわばこの子は、みなさんの愛によって生まれた命。いろいろな方の優しさとぬくもりに満ちた大切なプレゼントなんです。」



34歳のとき、はじめての出産で大量出血を起こし輸血を受ける。そのときに、生まれた乃琉あいるくんは現在、元気いっぱい過ごしている。



**献血は、いのちのレーみたいなもの**

峰山 真彩 さん

5歳のとき、急性リンパ性白血病を発症。それ以来、お母さんと二人三脚のような形で闘病生活を乗り越えました。「“お母さん、自分、死ぬんやろ？”ふと5歳の真彩が口にした言葉。おしゃまな女の子なんでね...髪が命だったんですよ。だから私に切られた日は、相当にショックだったみたいで、わんわん泣いていました。」抗ガン剤の副作用で髪が抜け落ちることを心配し、お母さんが真彩ちゃんの髪を短く切り揃えた頃は、「次はどうなるんだろう」と不安にさいなまれていました。「娘にとって献血は、いのちのレーみたいなもの。輸血パックには採血された場所が明記されており、ある時、そこに『沖縄』と書かれていて、遠く沖縄からはるばる海を越えて、うちの子を助けるためにやって来てくれたんだなって。献血してくださった方々に、とにかく『ありがとう』の気持ちでいっぱいです。」(談:峰山みねやま

真彩まいちゃんのお母さん)



5歳のときに急性リンパ性白血病を発症。現在では病気を克服し、元気に学校に通っている。将来の夢は薬剤師。「自分もいっぱい助けてもらったから、薬をつくる人になり、病気の人を助けたい」

～あなたの献血、患者さんに届けます～